

▶ 効率的なデータ保護、そして その先へ行くための5つのステップ

IT 組織は、クラウドの導入後、次のステップとして、データ管理戦略の近代化を迫られるだけでなく、様々な新しい課題に直面することになります。

従来のツールでは、IT 組織がマルチクラウド環境で必要とする効率性と柔軟性を実現することはできません。

さいわいにも、データ管理プラットフォームを正しく選択した IT 組織は、データ保護とクラウド管理の両面で高い効率性を実現する事ができます。

クラウド導入の第1段階では、データとアプリケーションを容易かつ安価にクラウドに移行することに重点が置かれました。これが順調に進むと、IT 組織は導入の次の段階、つまり「運用開始」段階に入ります。この段階では、残りのワークロードをクラウドに移行し、さらに、主要な業務において、クラウドリソースを運用可能にするための戦略および、その実行が必要となります。

これら2つの段階においては、データを必要な時に必要な場所へ確実にリカバリ出来ることが必要不可欠になります。

そして、その実現には包括的データ管理プラットフォームが必要です。



▶ 効率的なデータ保護

包括的プラットフォームだけが、データセンターとマルチクラウド環境の両方にまたがる、データ管理とデータ保護のニーズに適切に対応できます。データとワークロードを複数の場所で実行する場合、IT 組織は本当の意味で「設定するだけで、後の操作は一切不要」なソリューションを選択する必要があります。IT 組織には、バックアップ、アーカイブ、リカバリそれぞれのプロセスを個別に監視したり、手で管理したりするリソースを有していません。これらのプロセスは、エンド ツー エンドで、複数のクラウド プラットフォーム間で自動化される必要があります。IT 組織は、事前構築済みもしくはカスタマイズが可能なワークフローの自動化エンジンを使用して複雑なエンド ツー エンド プロセスのオーケストレーションを行うことができる、包括的データ管理ソリューションを探する必要があります。

いくつかの統合データ管理プラットフォームでは、データのある環境から別の環境に効率的に移行するためのさまざまなテクノロジーを提供するものもあります。しかし、IT 部門は、ストレージ アレイ間の複製、仮想マシンの複製、ホストベースのブロックレベル複製、WAN 最適化重複排除などの特定のテクノロジーに縛られることなく、これらすべてのテクノロジーを活用し、ワークロード毎に最適なソリューションを選択出来るようになることを望んでいます。

残念ながら、多くのプロバイダーでは、お客様がデータをオフサイトに移動するには画一的なアプローチを選択するしかなく、その妥協の結果、コストやリスクの増加を強いてしまっているのです。これを回避するために、IT 組織は、高度に統合された 1 つのソフトウェア パッケージを用い、ストレージ アレイ間の複製、仮想マシンの複製、ホストベースのブロックレベル複製、WAN 最適化重複排除の各テクノロジーを横断して実行することの出来るソリューションの利用を検討する必要があります。

そして、一部の包括的なデータ管理プラットフォームは、データ保護機能も集約しています。バックアップ、アーカイブ、リカバリはすべて共通のインフラストラクチャを介して定義され、そのインフラストラクチャを介して、IT 環境全体で効率的な単一のポリシーを使用してタスクを実行することができます。これにより、メール、クラウド、オンプレミスのデータ保存のために、複数のバックアップおよびアーカイブ ソリューションを用意する必要がなくなります。さらに、このソリューションがエンド ユーザーへデータ アクセスを提供できるなら、リカバリを実行したりデータ コピーを作成したりといった IT 組織の日々のワークロードを大幅に削減できます。IT 組織は、データの存在場所にかかわらず、一貫性があり効率的なポリシーを導入することができるソリューションを選択する必要があります。

自動化と統合により、IT 組織は、多くの運用 / 管理タスクの効率化を図れます。たとえば、データ保護機能とデータ管理機能のすべてを単一のプラットフォームに統合したソフトウェア ソリューションを利用すると、IT 組織はレポートに要する時間を 60% 以上短縮できるうえ、バックアップの管理に要する時間は 50% 短縮されます。さらに、IT 組織は運用タスクを完了するために必要となる時間も短縮できると報告されており、オフサイト コピーにかかる時間は 45% 短縮され、フル バックアップにかかる時間は 42% 短縮されます。¹

独自の条件に基づいたクラウド:
ベンダー ロック インを回避し、
データの主導権を握る

ワークロードのポータビリティを
犠牲にしない。このドキュメント
では、現実世界におけるワークロー
ドのポータビリティを今すぐ実現
する方法を共有します。

今すぐ読む



commvau.lt/1ZFPs7X

▶ 効率的なクラウド管理

効率的な管理の必要性は、データ保護の域に留まりません。データ管理プラットフォームを選択する際、IT 組織は、そのソリューションがクラウド リソースを効率的に管理できるのかも考慮する必要があります。一部のソリューションでは、非常に先進的なクラウド オーケストレーション、プロビジョニング、管理機能によって、IT 組織がクラウド投資の価値を高めることができるようにしています。この目的のため、IT 組織は以下の特性を備えたデータ管理プラットフォームを検討する必要があります。

- 1 クラウドに深く根ざしている。データ管理プロバイダーの中には、競合他社に追いついて仕方なくクラウドへ移行したところもあります。クラウドの価値を長年認め、複数のクラウド ストレージ プラットフォームをまとめて統合する努力を早くからしてきたプロバイダーを探しましょう。
- 2 クラウド オーケストレーションとプロビジョニング機能。こうした機能は、ディザスタリカバリ、テスト / 開発といった主要なユース ケースのためにクラウド インフラストラクチャの管理を合理化できるよう設計されている必要があります。
- 3 セルフサービスを提供可能な管理ツール。エンド ユーザーは、カスタマイズ可能なウェブ ベースのセルフサービスが可能な管理ツールによって自分のクラウド リソースを管理でき、一方管理者は、特定の時点で利用可能なリソースのサイズや量を、ポリシーに基づいて制御可能にする必要があります。
- 4 ネイティブなクラウド機能。プラットフォームは、主要なすべてのクラウド コンピューティング プラットフォーム (Azure、Amazon Web Services、OpenStack、VMware など) と同様に、その他多くのクラウド ストレージ プラットフォームもネイティブでサポートしているべきです。これにより、将来のクラウド サポートに対するプロバイダーのロード マップに自信と安心が得られます。
- 5 複数のクラウド環境に対する単一の管理コンソール。主要なクラウド コンピューティング プラットフォームとストレージ プラットフォームとの徹底した統合により、異なるクラウドの管理プロセスとテクノロジーを「標準化」できるプラットフォーム プロバイダーもあります。

IT 組織がメインストリーム アプリケーションをクラウドに移行する場合、クラウド戦略から最大限の価値を確実に実感できる必要があります。このことは、クラウドの経済性を利用し、クラウド リソースをスマートに管理し、開発者の生産性を高め、アプリケーションの配信を加速させることを意味します。データ管理プラットフォームにより、データ保護を効率的に実現しながら、これらの目標を達成できることが必要です。

すべてのデータ保護機能とデータ管理機能が単一のプラットフォームに統合されているソフトウェアの使用によって、IT 組織は、レポートに要する時間を 60% 以上短縮できます。

▶ Commvault でクラウド対応のデータ保護を可能にする方法の詳細については、[commvault.com/cloud](https://www.commvault.com/cloud) をご覧ください。

© 2017 Commvault Systems, Inc. All rights reserved. Commvault、Commvault とロゴ、「C hexagon」のロゴ、Commvault Systems、Commvault OnePass、CommServe、CommCell、IntelliSnap、Commvault Edge、および Edge Drive は、Commvault Systems, Inc. の商標または登録商標です。その他すべてのサードパーティのブランド、製品、サービス名、商標、または登録サービス マークは、それぞれの所有者の所有物であり、これらの所有者の製品またはサービスを識別するために使用されます。すべての仕様は通知なしに変更される場合があります。

COMMVAULT 



▶ Commvault Systems Japan 株式会社 〒141-6008 東京都品川区大崎 2-1-1 ThinkPark Tower 8F

www.commvault.com | PHONE: 03-5747-9610 | jpsales@commvault.com

© 2017 Commvault Systems, Inc. All rights reserved.